

建通新聞

令和6年6月6日（木曜日）



見坂氏、参院選出馬を表明

全建が推薦状交付

全国建設業協会（全建、今井雅則会長）の2024年度定時総会

後、国土交通省の近畿地方整備局長を務め、5月に退官した見坂茂範氏が、来夏の参院選に全国比例区から出馬することを表明した。全建は、同日の理事会で見坂氏の推薦を決め、今井会長が推薦状を手渡した。写真。

見坂氏は、京都大学大学院工学研究科を修了後、1993年に国土交通省に入省し、近畿地整京都国道事務所長、関東地方整備局企画部長、大臣官房技術調査課長、

近畿地方整備局長などを歴任。兵庫県出身の55歳。

今年5月、近畿地方整備局長を最後に同省を退官しており、建設業の職域代表である佐藤信秋参院議員の後任として、来夏の参院選に全国比例区で出馬する。

今井会長から推薦状を受け取った見坂氏は「これまで国交省という役所の立場で建設業界と向き合ってきたが、これからは建設業界の立場に立ち、必要に応じて国交省に業界の声を伝えたい」と発言。会場に集まった全建関係

者に「非常に厳しい選挙になる。全建の会員企業の皆さまの支援をお願いしたい」と協力を呼び掛けた。

総会の冒頭、後継として見坂氏を指名した佐藤参院議員は「これから1年間は皆さまのご支援を受け、国王強靱（きょうじん）化や（審議中の）品確法の中身を詰めないといけない」と1年を残した参院議員としての任期について述べる一方、今後については「さまざまなことを考えないといけないが、引き続き皆さまのご支援をいただきたい」と述べた。

総会終了後に会見した全建の今井会長は、建設業の職域代表として推薦することを決めた見坂氏について「発信力に非常に期待している」と述べた上で、「業界から頼られる存在、業界の味方として力を発揮してほしい」と同氏への支援を約束した。